



地域支援コラム

【生野支援学校との合同巡回相談2】

(D 小学校：小3女子・小5男子・小5女子・小4女子)

依頼のあった学校が、本校と生野支援学校が担当する地域であったため、生野支援学校と合同で2回目の巡回相談を行いました。今回の相談は、音楽の時間にリコーダー指導を行い、知的発達面と身体面の両方の観点からアプローチしました。

①ダウン症の障がいがある児童について：タンギングが上手いため、鳴らせる音の「シ」の1音をリズムに合わせてふくようにしました。

アドバイス ・運指が難しいという不器用さは身体感覚の未発達から来るものであるため、指の操作性を上げるためには、ジャングルジムで遊んだり、よつばいをしたりする粗大運動を学習に取り入れ、身体全体を動かしながら身体感覚の発達を促して行くことがよいと伝えました。

②自閉的傾向のある児童について：パソコンで楽譜を流して見ながら演奏しますが、自分で穴を押さえることが難しい（嫌がる）ため、リコーダーをふく際は、教員が押して鳴らすことができました。

アドバイス ・本児の絵からは、なぐり書きの段階であることが分かりました。リコーダーの運指は発達段階的に難しいと予想されるため、本児も粗大運動をとおして発達を促すことが重要であると伝えました。

・「フッフッフ」と息をふくことができるので、1音を長くふき続けることからはじめるとよい、クリアできれば次のステップとして、タンギングにチャレンジするのがよいことを伝えました。

③知的障がいのある児童について:穴を押さえやすい補助がついているリコーダー(ヌーボ)を使用し、運指の写真を見て練習をしていました。

- アドバイス
- ・本児にとって右手と左手が違う動きをするというのはイメージしにくく、模倣する場合、見て考えて動くという流れになるため、演奏する余裕がなくなるのではないかと伝えた。左手が自動化できれば右手を動かすことに取り組めるのではないかと伝えました。
 - ・手本の写真を見て真似することが難しいことについては、手本に対しマイナスのイメージ(動かしにくい、難しいなど)があるため、運指は教員が行い、音がなったという成功体験を積み上げていくところからはじめてはどうかと伝えました。

④左手にまひがある児童について:穴を押さえやすい補助がついているリコーダー(ヌーボ)を使用し、右手で演奏することができていました。教員の手本を真似しようと意欲もみられました。

- アドバイス
- ・演奏に使わない左手は、リコーダーの先を保持することで演奏を安定させることができること、また、リコーダーが安定することで、右手の小指を使い「ファ」の音にチャレンジできることを伝えました。

今回、相談を受けた4人については粗大運動を学習に取り入れ、発達を促すことでリコーダーをふく場面だけでなく様々な場面でプラスの効果が期待できると思われました。音楽科の教員の専門性に加え、生野支援学校の教員から感覚面、認知面について助言も得られたことで多角的に相談に答えることができました。

相談内容については、2校が合同で対応することも可能です。ご要望がございましたら、ご連絡ください。

